※令和４年度以降入学生用

学校番号	2003

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	1＋1 単位	年次	3 年次前期・後期
使用教科書	「倫理」　（東京書籍）						
副教材等	「最新図説　倫理」　（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「倫理」は、2 年次で学習した「公共」の倫理的分野をさらに深めて学習する。授業では、青年期の心理、古代の哲学者の思想、中世・近現代のさまざまな思想や理論について考察していく。単に知識を積み上げるだけではなく、真意を理解した上で、今日的な課題に対しても公平・公正な立場で判断できる力を身につけていきたい。多様な考え方を学ぶ中で、様々な課題に対して客観的に自己を振り返り、自分はどう行動するべきか、どう生きるべきかという視点をもって、主体的に取り組んでほしい。

2　学習の到達目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方・生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者とともに生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

(1) 青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成にむけて、他者と共に生きる自己の生き方について考える。

(2) 自己の生きる課題とのかかわりにおいて、先哲の基本的な考え方について理解し、人間の存在や価値について思索を深める。

(3) 現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深め、自己の生き方の確立を促すとともに、よりよい社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方・生き方について自覚を深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自己形成や人間としての在り方・生き方にかかわる基本的な事柄を理解し、人格形成のための知識を習得する。いろいろな資料・情報を適切にまとめ、生かす技能を身につける。	多様な思想・考え方を把握し、多面的・多角的に考察して探究するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、さまざまな方法で適切に表現する力を養う。	現代に生きる私たちが直面する諸課題を、倫理的な視点からとらえ、自己の生き方にかかわる課題として主体的に思索を深める。諸事項の理解のみにとどまるのではなく、自らが倫理的な観点から諸事象を受け止め考える力を育てる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	青年期の課題と自己形成／人間としての自覚／国際社会に生きる日本人の自覚	1節 青年期の意義 1 現代の青年 2 青年期の位置づけ 3 青年期の特徴 2節 青年期の課題と生き方 1 主体性の確立 2 自己理解 3 幸福と生きがい 1節 人間とは何か 1 人間と哲学 2節 ギリシャの思想 1 自然哲学とソフィスト 2 ソクラテス 3 プラトン 4 アリストテレス 5 ヘレニズム時代の思想 3節 キリスト教 1 旧約聖書の倫理 2 イエスの教え 3 キリスト教の展開 4節 イスラーム 1 ムハンマドとイスラームの教え 2 イスラームの展開	a:現代に生きている人間としての在り方・生き方にかかわる諸課題を自分の課題として理解し、人格形成に生かす知識として身につけている。 b:現代の諸事象について、倫理的視点から課題を見出し、自己の課題とつなげて多角的に考察している。自己の在り方・生き方について主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を、筋道を立てて適切に表現している。 c:現代の倫理的課題に対して関心を高め、自己の課題とつなげて意欲的に探究し、積極的に取り組んで生きようとしている。	定期考査	定期考査	授業 レポート 課題 討議 発表
		5節 仏教 1 古代インドの思想 2 ブッダの思想 3 仏教の展開 6節 中国の思想 1 孔子と儒家の思想 2 儒家思想の展開 3 老荘思想 7節 芸術と人間 1 自然や芸術との会話 2 創造的な鑑賞への誘い 1節 日本人の精神風土 2節 仏教と日本人の思想形成 3節 儒教と日本人の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本人の近代化	a:現代に生きている人間としての在り方・生き方にかかわる諸課題を自分の課題として理解し、人格形成に生かす知識として身につけている。 b:現代の諸事象について、倫理的視点から課題を見出し、自己の課題とつなげて多角的に考察している。自己の在り方・生き方について主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を、筋道を立てて適切に表現している。 c:現代の倫理的課題に対して関心を高め、自己の課題とつなげて意欲的に探究し、積極的に取り組んで生きようとしている。	定期考査	定期考査	授業 レポート 課題 討議 発表

※令和４年度以降入学生用

後期	現代を生きる人間の倫理 ／ 現代の課題を考える	1 節　人間の尊厳の根拠を求めて 1 人間尊重へ向けて 2 理性への信頼と懐疑 3 経験論と合理論の対話 2 節　民主社会と自由を求めて 1 社会契約説 2 人格の尊厳　カント 3 ヘーゲルの人倫の思想 3 節　社会変革の倫理を求めて 1 功利主義 2 社会主義思想 3 実証主義と進化論 4 プラグマティズム 4 節　新たな人間像を求めて 1 主体性の回復を求めて 2 現代の実存主義 3 人間観と言語観の問い直し 5 節　自然や科学技術と人間とのかかわり 1 近代的自然観 2 自然との調和 6 節　民主社会の成熟のために 1 差別と偏見のない社会 2 社会参加と奉仕 3 公共性のための場を開く 1 節　生命 2 節　家族 3 節　地域社会 4 節　情報社会 5 節　文化と宗教 6 節　環境 7 節　国際社会と人類の福祉	a:現代に生きている人間としての在り方・生き方にかかわる諸課題を自分の課題として理解し、人格形成に生かす知識として身につけている。 b:現代の諸事象について、倫理的視点から課題を見出し、自己の課題とつなげて多角的に考察している。自己の在り方・生き方について主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を、筋道を立てて適切に表現している。 c:現代の倫理的課題に対して関心を高め、自己の課題とつなげて意欲的に探究し、積極的に取り組んで生きようとしている。	定期考査	定期考査	授業 レポート 課題 討議 発表

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度